

日羽協試験方法	pH 試験方法	JDFA-TM004 2018/12
---------	---------	-----------------------

序文

羽毛の加工処理による影響を調べる水抽出液の pH 値（水素イオン濃度指数）を求める試験方法を定める。

引用資料：

JIS L 1903 羽毛試験方法

IDFB Part 06 Acidity (pH Value of Aqueous Extract)

1. 装置及び材料

- (1) 電子はかり(電子天びん) 0.2mg までひょう量できるもの。
- (2) ガラス電極 pH 計 温度補償電極式 pH 計も使用できる。
- (3) 共通すり合わせ三角フラスコ JIS R 3503 に規定する 500mL のもの。
- (4) 振とう機 振とう幅 40mm、振とう数毎分 150 回±10 回に調整可能なもの。
- (5) ガラスろ過器 JIS R 3503 に規定するつぼ形ガラスろ過器又はブフナー漏斗形ガラスろ過器で、ろ過板の細孔番号 1 のもの。
- (6) 水 JIS K 0557 の 4. (種別及び質)に規定する A3 又は A4 の水。

2. 試料の準備

試験に用いる羽毛は、日羽協試験方法 (JDFA-TM001 試験のためのサンプリング方法) によって採取し、均一に混合する。試料を標準状態の試験室で、空気が通過しやすく羽毛が飛散しないような容器に収納し、恒量になるまで放置する。

3. 試験手順

3-1. A 法 (常温蒸留水抽出法)

- (1) 2. で準備された試料から、 2.0 ± 0.1 g の試験試料 2 個を上層、中層、下層の各部分からランダムに採取する。
- (2) 試験試料を共通すり合わせフラスコに入れ、温度約 20℃の水を 100ml 加え、試験試料が十分かつ平均に浸るまで攪拌してから、同温度の水を 100ml 加えて試験試料を十分浸潤したのち振とう機を用いて 2 時間振とう幅 40mm、振とう数毎分 150 回±10 回で振とうする。
- (3) 振とう後、水抽出液をガラスろ過器でろ過し、迅速に 25 ± 2 ℃に調整して、ガラス電極 pH 計で pH を測定する。

3-2. B 法 (簡便法)

- (1) JIS L 1903 清浄度試験を行なった後の水抽出液を、ガラス電極 pH 計で測定する。

4. 試験結果

2 試験試料から求めた pH の平均値を求める (小数点以下 1 桁に丸める)。結果には A 法、B 法何れかの試験方法を付記する。

以上 (2018/Dec/12)